

Market Flash

2020年6月10日(水)

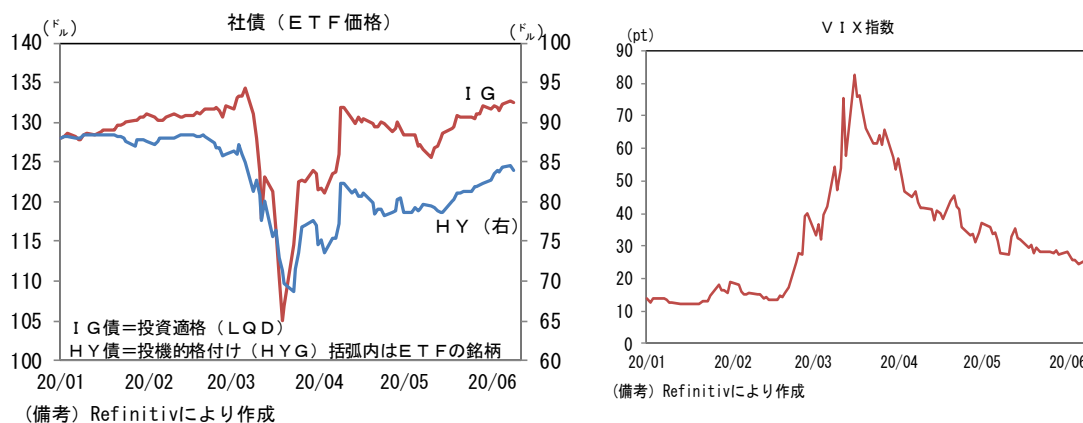
日銀バブルでは説明できない株価 ～景況感改善は広がってきた～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:03-5221-4523)

- ・日経平均は先行き12ヶ月20,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移するだろう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

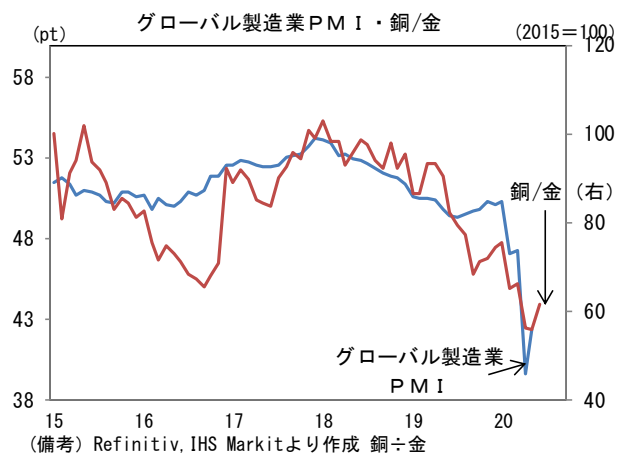
<#銅・金#グローバル製造業PMI#日銀ETF>

- ・前日の米国株はまちまち。NYダウは▲1.1%、S&P500は▲0.8%、NASDAQは+0.3%で引け。新規の材料に乏しいなか、高値警戒感もあり売り圧力が強かった。VIXは27.6へと小幅ながら上昇。20の大台割れが視野に入ってきた一方、米中対立、米大統領選、感染再拡大への懸念もあり低下ペースは鈍化。クレジット市場はIG債（投資適格）、HY債（投機的格付け）が共に軟調。



- ・米金利カーブはブル・フラット。10年は0.825% (▲5.0bp)、30年は1.578% (▲6.6bp) で引け。10年予想インフレ率 (BEI) は1.24% (▲3.9bp)、予想実質金利は▲0.43% (▲0.7bp) へと低下。なお、本日のFOMCでは政策変更は予想されていない。もっともフォワードガイダンスが強化されるとの見方が一部にありカーブ全体に下押し圧力が働いている。為替 (G10通貨) はUSDの強さが中位程度、JPYとEURがやや強め。USD/JPYは雇用統計発表後の上昇を巻き戻す動きもあつてか、特段の材料がないなかで107半ばへと下落。EUR/USDは1.13半ばへと水準を切り上げた。商品は堅調。WTI原油は38.9ドル (+0.8ドル)、銅は5774.0ドル (+74.5ドル) へと上昇。金も1715.3ドル (+16.8ドル) へと上昇した。安全資産の「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価

ると、世界経済再開の足取りは順調であるように見える。目下の株価上昇ペースは筆者の想定以上であるが、こうした環境下で日本株が回復すること自体に違和感はない。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

